

過去の城原川ダム計画について

平成27年 9月 1日

国土交通省 九州地方整備局

過去の城原川ダム計画について

城原川ダムは、以前の城原川首長会議や事業評価委員会等において下記のダム案を提示しておりました。今回、これらのダム案に検討の場（今回点検）で用いた「流水型ダム」を追記しました。

下記表の左記3案は左より「不特定容量を最大限確保した場合」、「必要量を仮定した場合」、「不特定容量なし（堆砂容量確保）」の条件により算出したものです。

城原川首長会議（第11回 H17.5）				
事業評価監視委員会（H15, H20, H23, H26年度） （現計画）			検討の場 （今回点検）	
	洪水調節＋不特定 （最大可能量を確保した場合）	洪水調節＋不特定 （沿川必要量を仮定した場合）	洪水調節のみ （穴あきダム）	洪水調節のみ （流水型ダム）
イメージ図	ダム高 約100m 洪水調節容量 約630万m³ 不特定容量 約790万m³ 堆砂容量 約170万m³	ダム高 約80m 洪水調節容量 約500万m³ 不特定容量 約200万m³ 堆砂容量 約170万m³	ダム高 約75m 洪水調節容量 約450万m³ 堆砂容量 約170万m³	ダム高 約60m 洪水調節容量 約350万m³ 堆砂容量 約5万m³
洪水調節容量	約630万m³	約500万m³	約450万m³	約350万m³
不特定容量	約790万m³	約200万m³	—	—
ダム規模	総貯水容量 約1590万m³ ダム高 約100m	総貯水容量 約870万m³ ダム高 約80m	総貯水容量 約620万m³ ダム高 約75m	総貯水容量 約355万m³ ダム高 約60m
事業費	約1020億円	約750億円	約660億円	約480億円

◎地質及び環境等、今後の調査結果によりダム規模や事業費が変わることがあります。